

日福大から初のプロ入り

(インカレ) 出場にも貢献した。

静岡県沼津市の出身で、小学二年でミニバスケットを始め、強豪の市立沼津高等学校、市立沼津高に進み、高校一年時には全国高校総体(インターハイ)に出場するなど活躍。各地の大学から声がかかったが、保健体育教員と特別支援学校教諭の免許が取得できるため、日福大を選んだ。

ニングを重ねた。四年では人生初の主将に。「相手の考えや立場を考えて発言するようになった」と、人間的に大きく成長できたという。

女子バスケット・遠藤選手

日本福祉大(美浜町)からは初となる女子プロバスケットボール選手が今月、デビューした。スポーツ科学部四年の遠藤真帆選手(三宅駿平)は、Wリーグの姫路イーグルス(兵庫県姫路市)への入団が決まっていたが、在学中から出場できる「アーリーエントリー」制度を利用して、一足早くプロのコートに立った。「チームに貢献できるように、がむしゃらに頑張っていく」と意気込む。

(三宅駿平)

Wリーグ姫路 一足早くデビュー

遠藤選手のポジションは、ゴールに近いインサイドを「主戦場」とするパワーフォワード。身長一七二センチと、女子バスケットの選手として、特に長身というわけではないがスピード感あるドライブと跳躍力を生かしたりバウンド奪取を武器とする。昨秋の東海学生バスケットボール女子一部リーグでは、優秀選手賞とバウンド王を獲得。チームとして初の全日本大学選手権

「インカレ」出場にも貢献した。静岡県沼津市の出身で、小学二年でミニバスケットを始め、強豪の市立沼津高等学校、市立沼津高に進み、高校一年時には全国高校総体(インターハイ)に出場するなど活躍。各地の大学から声がかかったが、保健体育教員と特別支援学校教諭の免許が取得できるため、日福大を選んだ。

「がむしゃらに頑張る」

元々は教員志望。プロを意識したのは就職活動を始めた三年の時だった。「進路を考えた時、今しかできないバスケットを続けたいと思った」。母校の市立沼津高で教育実習をしていた昨年六月ごろ、姫路から声がかかりプロ入りを決めた。保健体育の教員免許は取得しており、教員の夢は引退後にとっておく。

学生時代の一番の思い出は、「自分の代で初めて全国大会に出ることができた」とインカレ出場。競技以外では海岸で花火を楽しんだことや、仲間の家でお酒を飲んだことなどを挙げ、大学生らしい一面もぞかせる。

デビュー戦は今月六日で、これまでに六試合に出場した。「手応えはまだない。シユートの確率、体の強さが足りない」と現状を分析。「体が大きな選手がたくさんいる中、自分の特長を生かして、チームに貢献できる選手になりたい」。多くの期待を背に、美浜から大きく羽ばたく。



⑤今月、女子バスケットWリーグ「姫路イーグルス」の一員としてコートに立った遠藤選手。美浜町の日本福祉大で④4年時には主将として日本福祉大のチームを引っ張った